

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	24年5月に事前に理念の見直しについてのアンケートを全職員に取り、9月より新しい理念となった。理念は事務室・居間に掲げており、常に確認でき全職員で対応している。	今年度全職員からのアンケートをもとにホーム独自の理念を掲げ、理念の実践ができるよう、事務室・共有スペースに理念を掲示し、確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加、隣に地域交流空間わいが家もあり、地域住民、ボランティアと交流している。毎日隣のスーパーへ買い物外出が日課となっており、近隣神社ほか散歩を通じて日常的に交流できている。	小学校の敬老会にご家族と一緒に参加したり、長岡市での臨床美術の作品展へのご利用者の作品の出展なども行っています。また、地域の祭りの際は子供神輿に寄ってもらったり、町内の総会にも参加したり、楽器演奏のボランティアにも定期的に来てもらう等、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	地域への広報の回覧について、今後定期的に回覧できるように職員間で検討されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内の診療所、支援センター、隣の小規模多機能サービス、プラット新町、地域交流空間わいが家、老健と共に、地域の方からの福祉相談を受けている。実習生や地域住民の自由な来所(お茶のみ)を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回利用者の利用状況、サービス活動状況や評価への取り組みを報告し運営推進会議委員より意見を管理会議や部署会議にて検討しサービスの向上につなげている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、民生委員やご家族代表、市の担当者や地域包括支援センター職員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営体制など、市の担当者・地域包括支援センター職員と連絡を取り相談・意見を頂き連携をしている。市の介護相談員の来訪もあり入居者の声を反映出来るよう、サービスの向上に努めている。	市の担当者、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、アドバイス頂いているほか、市の介護相談員にも2ヶ月に1度来て頂くなど、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人代表者、全職員が身体拘束の禁止を認識しており行っていない。法人事業所内で身体拘束の学習会を行っている。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠も夜間のみとし、法人でも身体拘束についての研修を行い周知徹底するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で学習会を行い虐待が無いよう注意を払い虐待防止に努めている。法人独自のマニュアルを整備している。	身体拘束研修と同じく、法人にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については実際に活用し入居者の要望に応じて支援している。職員学習会等で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解除時には契約書、重要事項説明書ほか、ホームでの生活全般、医療連携ほか、丁寧に説明し利用者、ご家族と理解・ご了承頂けるよう対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族が意見や要望等、話しやすい環境を整備しサービス提供に反映している。ご家族が意見や要望等を言いやすいように外部機関窓口設置、法人診療所玄関に、意見箱を設置し運営に反映している。	運営推進会議の場だけでなく、サービス担当者会議、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、敬老会や夕涼み会にもご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は年4回、職員の提案・意見を傾聴する会議を開催している。管理者は月1回の部署会議・アンケートを通じて運営に反映している。	職員アンケートや、年一回の個人面談を行い、人事異動の要望も確認する等、個人の要望や悩みを聞いています。また、日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の職員会議の場で職員同士で検討が行われ、改善されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リフレッシュ助成金支給、福祉関係資格手当支給、実績に応じた賞与の支給ほか各種通信教育の費用補助福利厚生充実など、やりがいのある職場環境と条件に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人、事業所内で定期的に研修を行い、研修を受講できる機会を設けている。学習委員会や、法人内事業所が研修会を定期的に企画し職員がいつでも参加できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会の研修等を通じて、他事業所と交流を持ち各種研修、事例検討会等によりサービスの質の向上に努めている。法人内での交換研修も行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族見学来訪時、事前面接時、利用者やご家族の要望や身上を傾聴し、その思いや不安を受け止め、納得のいく説明を十分に行い利用者、ご家族の安心と信頼が得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族見学来訪時、事前面接時に、要望や身上を傾聴し、その思いや不安を受け止め、納得のいく説明を十分に行い、ご家族の安心と信頼が得られるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今必要とされるサービスを見極め本人の背景や緊急性に考慮し他事業所との連携を密にし、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆったりとした時間の中で、家事を一緒に行ったり、家事や様々な事を教わる事で、生活を共にする同士の関係を作っている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年に数回家族会を行い、本人と一緒に過ごす時間を作っている。定期的な行事の際にも、ご家族に案内を出し、参加を呼び掛けている。ご家族来所時にも、現状をお話しし、情報共有を行っている。	月に1度のホーム便りの送付もご利用者毎にコメントを添えて、ご家族に近況の報告をしています。日頃からよくご家族とコミュニケーションが取れており、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の友人が、ホームに来訪して下さり一緒にお茶のみをしたり、散髪時には馴染みの床屋に行く等、ご本人の馴染みの場所、人との交流を大事にするよう努めている。	知人の面会の受け入れや、お墓参りや馴染みの美容室へ出かけたり、スーパーへ買い物に出かけたりと今までの関係継続支援に努めています。また、職員の異動についても事業所広報にてご家族に説明し、ご理解をいただけるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が良好な関係を築けるように、適時食席の検討や、日々の生活の中での出来ごとについて話し合う場を設け、良好な関係が継続できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や医療機関へ移られた方への面会、サービス終了後も気軽にホームに来て頂けるように信頼関係を大切にしている。サービス終了後も必要があれば、連絡相談を受け体制がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の言動・表情をより細かく観察し、ご家族と相談・職員間での話し合いの場を設け、ケアの統一をし、本人の思いに近づけケアを行っている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は職員会議の場で連絡され、ケアプランの検討に活かされています。サービス担当者会議にはご利用者・ご家族にも参加していただき、要望を確認しています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族より、今までの生活歴馴染みの暮らし方、生活環境等の情報を頂き、また以前に利用していたサービス事業所からも情報を得て把握に努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。ご利用者の状態の変化に合わせアセスメントを行い、情報の更新も行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の生活記録等をもとに、話し合いの場を設け職員間で共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に家族・本人を含めた話し合いの場を設け、それをもとに介護計画を作成している。	3ヶ月に1度は介護計画の評価を実施し、サービス担当者会議にはご利用者・ご家族にも参加していただき介護計画の検討を行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子、日々の状態変化等、個々の生活記録や職員の連絡ノートを使い全職員が情報共有できるよう努めている。それをもとにケアの向上や介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて法人機関、母体診療所と連携を密にし常に柔軟な支援、サービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接の地域交流空間わいが家(足湯、機能訓練、各種趣味教室等)を利用。催事にはボランティアや地域住民との関わりもあり、地域交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を大切に希望された医療機関へ受診している。また、症状に応じて情報提供や指示を受けたりもしている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となり、往診も月2回来て頂いています。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめた情報提供表を医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護と看護の連携は図れており、常勤看護師は常に状態把握ができています。また、協力医療機関とも24時間体制で相談や指示をもらえる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は病院関係者と十分な情報交換を行っており、早期退院に向け対応している。母体診療所の医師に状況を報告、相談し退院後の受け入れにも対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期にご家族、医師、看護師、介護職員で十分な話し合いを行い、ケアの統一を行っている。	契約段階で管理者はホームの方針を伝えています。ご利用者の状態に応じて話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、主治医や看護師とも連携し支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師による心肺蘇生・AED操作研修を毎年実施。看護師による急変時の対応・応急処置の研修へも全員参加。マニュアルもある。	普通救命講習も全職員が受講しているほか、毎年1回は法人でもAEDの使用や心肺蘇生に関する研修を行っており、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施。地域との協力体制も築けている。	事業所にて、夜間の火災や水害を想定した避難訓練を行なっています。地域の組合員にも避難訓練に参加して頂いていますが、地域住民の避難訓練の参加はありませんでした。	避難訓練には地域の方にも参加をお願いし、災害時に地域の方にも協力して頂ける体制を検討されることを期待します。また、非常用の食品についても職員に周知されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、人生の先輩と言う気持ちを忘れずに対応するように指導しており、研修会・学習会への参加も行っている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように法人内研修等で徹底されています。また、広報への写真の掲載についても契約の際に確認するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己選択・自己決定できるような対応、環境づくりに努めている。自己表現が困難な方に関しては、表情等から読み取り自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者、個々のペースを大事にして本人の気持ちや、想いにそえるように個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族、ご本人から意向を聞きながらその人らしい身だしなみができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日近くのスーパーまで一緒に行き、食材を選んでもらい旬の食材を使い、調理・盛り付け・配膳・下膳を共にする事で、楽しみを持ってもらえるように支援している。	ご利用者にも調理や後片付けを行ってもらったり、ホットケーキやクレープなどのおやつ作りも一緒に行っています。ご利用者の意向を確認しメニューを決めたり、回転寿司へ外食に出かける等の支援も行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者個々の食事形態・量・バランスを考え行っている。毎月同法人内の管理栄養士に1ヶ月の献立の評価・指導を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け、必要時に介助を行っている。就寝前には義歯を預り、洗浄剤にて洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適時職員の話し合いの場を設け、個別の排泄対応時間を検討している。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、個々の排便状態を常に把握している。水分摂取を促し、食事の内容(食物繊維・乳製品)も常に考えながら、食事を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望時には入浴して頂けるように努めている。入浴拒否があった場合は日や時間を、ずらし対応している。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の生活パターンやその日の状態に合わせて午睡や、休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個々の服薬処方箋ファイルがあり、常に服薬管理や服薬支援と症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで過ごして来られた生活の中での役割や、習慣を大切に、ホームでの生活で可能な事は継続して頂いている。ホームでの生活では、個々の役割を見出し、生活に張り合い・喜びがあるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調・気分を考慮して、買い物・散歩等にお誘いしている。隣接のわいが家・プラットにも遊びに行く事もある。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、季節に合わせたお花見や紅葉狩りなどの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族・ご本人の了解を得て、ご自分で現金を所持されている方もおり、外出時には使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、電話をさせて頂いており、希望時以外にも、直接話しをして頂く機会を作っている。大好きな歌手へ手紙を書かれている方もいられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾り、ご利用者の写真や季節感のある装飾、家庭的な雰囲気になるように努めている。	共有スペースにはソファが置かれ、ご利用者がくつろぎながらテレビを見れる環境です。リビングにはご利用者のスナップ写真が掲示され、日々の活動が分かりやすくなっています。共有スペースの水槽ではウーパールーパーを飼っていたり、ご利用者の作品の掲示コーナーもあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや、畳みスペース、廊下には腰かけられる場所があり、思い思いに過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に慣れ親しんだ家具をお持ち頂けるようにお話しており、その方が心地良く慣れ親しんだ物に囲まれて生活できるように支援している。	居室には、使い慣れたタンスやお花など持ち込んでもらったり、ホームでの写真やご家族の写真、好きな芸能人のポスターを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りを目指し、その都度検討し、環境物品ほか改善に努めている。ご利用者個々のADLに合わせてできる事・わかる事を生かせる工夫や検討を行っている。		